

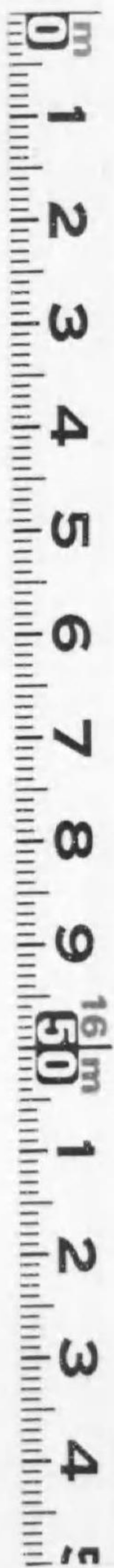
特 116

140

三重縣蠶業試驗場長 佐々木鈴一著

實驗 濕布育蠶法

都京 東亞蠶絲株式會社出版



始



緒言

吾人ハ現今我國ニ廣ク行ハル、夏秋蠶ノ飼育法即チ剝桑育ヤ全芽育ガ如何ニ
 モ不經濟極マル給桑法デアツテ蠶兒ハ給桑量ニ對スル一割五分位シカ食桑セ
 ヌノデアアル爲ニ往々營養不足ノ弊ニ陥リ不作ヲ見ルコト多ク何トシテモ此欠
 陥ヲ除キ安全ナル飼育法ノ案出ニ苦慮シテ來タモノデアアル大正七年鳥取縣ニ
 職ヲ奉ズルヤ同地ハ關西ニ於ケル唯一ノ糞詰病ノ產地ニシテ當業者ノ蒙ムル
 損害ハ實ニ莫大ナモノデアツタ予ハ職務上該蠶病ノ豫防ニ對シ何トカ良法ナ
 キモノカト種々該病ノ發生ニ關シ調査研究シテ見タ處ガ降雨ノ多イ年ニハ殆
 ンド斯ノ蠶病ノ發生スルコトナク旱魃ノ年ニハ必ず發生スルノデアアル然ル時
 ハ桑葉ノ水分ト稚蠶飼育中ニ於ケル室内濕氣ノ多寡ハ糞詰病ニ至大ノ關係ア
 ルコトヲ推考シ盛暑飼育ノ秋蠶ニ給桑毎ニ濕布ヲ覆ヒ飼育ヲ試ミタルニ果セ
 ルカナ糞詰病ヲ更ニ出スコトナク且給桑量ハ普通育ニ比シ殆ンド六割ニテ立

大正
 14. 6. 13
 内交

派ナ成繭ヲ見タノデアアル。

茲ニ於テ濕布育ハ糞詰病ヲ豫防シ得ルノミナラズ現時普及セル剉桑育及全葉育等ノ最大欠陥タル營養不足ノ大害ヲ防止シ得ル適法ナリト信ジ大正九年ヨリ濕布育ノ研究ニ没頭シ漸ク完成スルニ至ツタノデアアル偶滋賀縣蠶業試驗場ニ於テモ大村形司君濕布育ノ研鑽ヲ遂ゲラレ同縣ニ廣ク之ヲ應用セラレ其實績大ニ見ルベキモノアルヤヲ聞キ益濕布育ガ夏秋蠶飼育法トシテ適切ナルモノナルヲ確信シタ次第デアアル。

最近夏秋蠶ノ不作ハ全國ニ瀰漫シ之ガ適當ナル飼育法ノ選擇ニ汲々タルノ時濕布育ノ眞髓ヲ公ニシ當業者ノ參考ニ資スルハ強チ徒勞ナラザルヲ信ジ茲ニ實驗上ヨリ得タル概要ヲ綴リ上梓シタ次第デアアル。

大正十四年一月

著 者 識

實驗 濕布育蠶法目次

第一章 總 論	一
第一節 夏秋蠶不作原因	二
第二節 適良ナル夏秋蠶飼育法	一二
第二章 濕布育ノ特徴	一五
第一節 陽氣ノ調節	一六
第二節 安全ナル稚蠶飼育	一七
第三章 濕布育ニ要スル器具	一九
第四章 濕布育ノ實際	二二
第一節 掃 立	二二
第二節 擴 座	二五
第三節 給 桑	二七

第四節 濕布育ノ給桑法	三〇
第五節 濕布育ト催眠ノ取扱	三二
第六節 濕布育ト就眠中ノ取扱	三三
第七節 濕布育ト第三齡ノ取扱	三四
第五章 濕布育ノ標準	三四
第六章 結 論	四一

實 驗 濕 布 育 蠶 法 目 次 終

實 驗 濕 布 育 蠶 法

佐々木鈴一著

第一章 總 論

輓近我國ノ蠶業ハ偉大ナル發展ヲ來シ殊ニ夏秋蠶ノ進歩ハ頗ル顯著ニシテ今ヤ産繭額ハ春蠶ヲ凌駕スルノ状態ニ到達シタノデアアル將來我國ノ産繭額ヲ益々増加シ養蠶經營ヲシテ一層圓滑ナラシムルニハ益夏秋蠶ノ改良進歩ヲ促スノ喫緊ナルヲ認ムル次第デアアル然ルニ近年陽氣ガ悪イノカ將蠶ノ品種ガ弱クナツタノカ俗ニ五日病ト稱スル一種ノ軟化病ニ犯サレ上簇間際ニ屍ハ累々山ヲ爲シ悲惨失敗ニ陥ル養蠶家ノ激増シタ事ハ甚ダ遺憾ノ極ミデアアル。

五日病ハ或ハ類似卒倒病ナリト稱セラレ或ハ糞詰病ノ一種ナリトモ稱ヘラレ之ガ病理的ニ起ルモノカ將生理的ニ起ルモノナルカ未ダ其ノ解決ヲナスニ至ラヌノデアアルガ現今蠶病ハ假令其ノ病原菌ガ明デアツテモ一日罹病スルトキハ到底全治ノ手段ハ無イノデアアル故ニ何ト謂フテモ蠶病ハ之ヲ生理的ニ解決セネバナラヌ殊ニ五日病ノ如キハ其ノ死滅状態ヲ精査スル時ハ胃中ニ包臈セ

ル食桑ハ消化不能ニ陥リ食桑ガ胃中ニ充滿スルト共ニ腸液ハ腐敗シテ褐色ヲ呈シ一種異様ノ惡臭ヲ放チ苦悶ヲ始メ遂ニ死滅スルニ至ルモノデアアル而シテ此ノ五日病ニ罹ツタ蠶兒ノ消食管ヲ検査スルト之ヲ健蠶ノ消食管ニ比シ内側ニ異狀ヲ認ムルノデアアル即チ胃ノ内壁ハ潰レテ消化吸収ニ支障ヲ來スコトハ瀝然タルモノデアアル依之觀之五日病ハ體ニ生理的障害ニヨリテ惹起スル蠶病デアアルト認定シ得ルノデアアル現時夏秋蠶不作ノ大源ガ五日病デアリトスレバ之ガ豫防ノ方法ヲ案出シ是ヲ未然ニ防止スルノ策ヲ講ズルハ蓋シ夏秋蠶ノ飼育ヲ定安ニ導ク所以ニシテ濕布育ノ如キハ即チコノ目的ヲ達成シ得ル唯一ノ適法ナルヲ信ジテ疑ハザル次第デアアル。

第一節 夏秋蠶不作ノ原因

飼育上ヨリ夏秋蠶不作ノ原因ヲ調査スル時ハ

- 一、卵期中ニ於テ高温ノ害ヲ被ル事
- 一、稚蠶中ニ於テ高温ノ害ヲ被ル事

一、稚蠶飼育ノ用桑ニ誤リアル事

一、眠起ノ取扱ニ誤リアル事

一、給桑ノ適期ヲ失スルコト

等ニ先ツ指チ屈セネバナラヌ

夏秋蠶ノ飼育時期ト云ヘバ六月下旬カラ十月中旬ノ間デ其ノ月々ニヨツテ陽氣ヤ桑ノ状態ガ非常ニ異ナルノデアアル而シテ七月下旬迄ニ掃立タ蠶カ又ハ九月上旬以後ニ掃立ツルモノハ概ネ豊作ヲ得ルノニ八月中ニ掃立ツル蠶ハ不作ニ陥ル場合ガ甚ダ多イノデアアル是ハ飼育中ノ高温乾燥ノ害ヲ被ルコトガ原因ヲナス様デアアルガ實ハ主トシテ卵期即チ催青中ノ高温ニ依ル被害ガ多イノデアアル例ヘバ七月下旬マデデアアルト一日中最高温度ト雖モ午後一時頃カラ午後四時頃マデ九十度以上ニ昇ルコトガアツテモ一日平均温度ハ八十度位ノ程度デアアル又九月上旬以後モ同様デアアル然ルニ八月中ハ晝間ハ九十五度以上ニモ昇リ一日平均温度八十五度以上ニ昇ル場合ハ決シテ少クナイ此時卵期ヲ天然

状態ニ經過セシムル時ハ高温ノ爲ニ卵ハ障害ヲ被リ虚弱性ヲ惹起スルモノデア
ル故ニ夏秋蠶ハ其時期ニ依ツテ安全ナル催青法ヲ施シ卵内胚子ノ發育ヲ完
全ナラシムル必要ガアル。

夏秋蠶ノ催青ハ之ヲ三期ニ分ツテ行フガ宜シイ即チ胚子休眠状態ヨリ最長期
ニ達スルマデヲ前期トシ最長期ヨリ胚子ノ反轉期ヲ終リ頭部ノ黑色ヲ現ハス
(俗ニ目付ト云フ)マデヲ中期トシ眼點出現後孵化スルマデヲ後期トス今此ノ
三期ニ於ケル適當ナル温濕度ヲ示スト次ノ様デアアル。

期 間	温 度(F)	乾濕球示度ノ差
前 期	六五度—七〇	三度—五
中 期	七八度—八〇	六度—八
後 期	七三度—七五	三度—五

斯クスル時ハ孵化セル蟻蠶ガ强健デアアルバカリデナク孵化ガ齊一デ掃立ツル
ニ便利デアアル。

稚蠶ハ九十五度以上ノ高温ニ遭遇スルト著シク疲勞スルモノデアアル勿論高温
乾燥ノ場合ハ体内營養分ノ消耗ガ速デアアルカラ之ガ補給ノ件ハザル時ハ一層
衰弱シ之ヲ毎日反覆スレバ遂ニ病徵ヲ現ハスコトニナルノデアアル茲ニ於テ温
度ガ高ケレバ水分多キ桑葉ヲ量ト回数ヲ増加スル必要ヲ生ズル理デアアル併シ
如何ニ人力ノ最善ヲ盡シタ積リデモ及バヌ場合モ出來ルシ一方ニ於テ經濟ヲ
考ヘネバナラヌカラ其處デ遂ニ不作ノ因ヲ爲スノデアアル。

稚蠶中ニ充分營養分ヲ吸收貯蓄セシメテ所謂太サノ良ク齊ツタ充實シタ體ニ
構成シ上ゲルコトハ臆テ壯蠶ニ相當不良ノ境遇ニ出遭フモ弱ラヌ素質ヲ造ル
コトニ成ルノデアアル蠶ガ胃腸ヲ障害シテ軟化病ニ罹ルモノハ三眠マデノ期間
デアアル蠶ハ桑ヲ唯一ノ食物トシテ發育スルモノデアアルガ桑ニハ六百餘種ノ品
種ガアツテ之ガ營養上ノ價值ニハ各相違ガアル而シテ予ハ桑ヲ飼料トシテ其
ノ價值ヲ定メルニハ之ヲ三種ノ系統ニ區別スルガ適當デアアルト信ズルモノデ
アル。

一、山桑系、一名赤木系トモ稱シ葉ノ組織概ネ粗ニシテ薄ク葉面鋸齒狀チナシ葉色濃青色ヲ呈シ肥沃ノ土地ニ栽植スルカ又ハ窒素肥料ヲ多ク施スト黒味ヲ帶ビ瘠地ニ作ルカ若ハ施肥ガ少イト葉脈ノ茶褐色ニ變ズル桑ヲ謂フノデアアル伊達市平伊達赤木(金子)大葉早生、十文字、多胡早生、鼠返、青木市平、等ハ此系統ニ屬スルモノデアアル。

一、魯桑系、此桑ハ葉ノ組織密ニシテ厚ク葉面滑カニ葉色黃青色ヲ呈シ一種ノ光澤ヲ現ハシ肥料ヲ多ク施シテモ葉色ニ黒味ヲ帶ブコトナク又瘠地ニ栽培シテモ葉脈ノ茶褐色ニ變ズルコトガナイノデアアル、魯桑、改良魯桑、甲撰、清十郎、白桑、御國桑等ハ其例デアアル。

一、中間系、此桑ハ葉質赤市系ト魯桑系トノ中間ニ位スルモノデア葉ノ狀態ハ魯桑ニ類似スレ共魯桑ノ如ク光澤ガ鮮カデナク葉ハ概ネ薄ク葉色ハ濃青色ヲ呈シ組織モ密ナラズ粗ナラズ手觸リノ良イ桑デアアル、九絞龍、收穫一、八ツ房、魯八、武田十文字、改良鼠返、露國野桑ノ如キハ之ニ屬スルモノデアアル

以上三大別ニヨリテ秋蠶ヲ飼育シテ見ルト次ノ様ナ結果ヲ示スモノデアアル

桑ノ品種	經過日數	五齡起蠶體量(一〇〇頭)	減蠶歩合	上繭一升重	對生繭量	對蠶量一
島ノ内(山桑系)	二二、〇〇	二九、〇	七、六%	九一、〇	一四、六二	四、八二五
改良魯桑(魯桑系統)	二二、〇〇	二六、〇	六八、三	八〇、〇	一四、八一	一、四三〇
八ツ房(中間系)	二二、〇〇	二七、〇	一六、〇	八九、〇	一三、四〇	四、〇〇五

以上ハ三重縣蠶業試驗場ノ成績ニシテ大正十一年七月二十七日掃立八月十七日上簇ノ國蠶日一〇七號ヲ用ヒ飼育中ノ温濕度ハ温度八〇、一度濕度八一、四%ニテ飼育シタ結果デアアル。

又予ガ鳥取縣蠶業試驗場ニ於テ行ツタ成績ハ左ノ如クデアアル。

桑ノ品種	掃立月日	室		減蠶歩合	生繭百匁繭層量	蠶量一匁收繭量
		温	濕			
大葉早生(山桑系)	八月十一日	八二、一	七〇、六	一二、五%	一三、八	三、四五〇
改良魯桑(魯桑系)	八月十一日	八一、九	七一、二	三八、九	一二、七	二、一九〇
改良鼠返(中間系)	八月十一日	八一、九	七一、二	二七、六	一四、四	二、六八五
三令迄大葉早生	八月十一日	八二、一	七〇、六	一五、〇	一四、六	三、二一七
四令迄改良魯桑	八月十一日	八二、一	七〇、六	一五、〇	一四、六	三、二一七

供試品種ハ(國蠶支九號×國蠶支一〇一號)×國蠶日一〇六號ノ三元雜種デア
以上ノ結果ニヨツテ見ルト夏秋蠶ノ稚蠶用桑ハ山桑系ヲ用ユルガ最モ安全ナ
リト謂ハネバナヲ又稚蠶飼育ニ山桑系ガ適當デアツテ魯桑系ノ不良デア
トハ茨城縣、福井縣、静岡縣、山形縣等ノ蠶業試驗場ノ成績ニヨモ明瞭ニ之
ヲ證明シテ居ルノデア何故ニ稚蠶用桑ニ魯桑系ヲ用フルト不良デア
ルカト謂フニ之ハ組織ガ密デア
ル爲ニ食桑ニ手間取ルノト魯桑ニハ枸橼酸、淋檜酸、
琥珀酸等ノ有機酸ノ含量ガ山桑系ニ比シ三倍モ多クアルカラ蠶兒ノ胃液ノあ
るかり性ト中和シテ消化作用ヲ妨害スルモノト謂ハレテ居ル。

又近來夏秋蠶ノ稚蠶飼育ニ用フル桑ハ充實シタル桑葉ヲ佳トシ充實ノ意味ハ
稍硬目ノ桑ナリト謂ハレテ居ル而シ充實ナル意味ハ決シテ硬葉ノコトニ非ズ
滋養分ノ充實シタル義ニシテ硬軟ノ差別ヲ謂フモノデアハナイ元來夏秋蠶ノ稚
蠶ニハ稍軟葉ヲ用ヒテ之ヲ恙ナク飼ヒ通スコトガ出來レバ收繭量モ多イシ繭
質モ亦良好デア
ル然ルニ稚蠶中軟葉ヲ用ヒテ蟲ヲ非常ニ太ラスト壯蠶ニ成ツ

テ虛弱ニ陥ル虞ガアルカラ之ヲ警戒シテ稍硬目ノモノヲ用ユルヲ安全トスル
ノデア
ル要スルニ稚蠶ニ用フル桑葉硬軟ノ成績ハ三齡用桑ノ硬軟ニ依テ決ス
ルモノデア
ル即チ一齡ニ軟葉ヲ以テ飼育シテ來タモノヲ三齡ニ俄カニ硬
葉ヲ用フルト蠶ハ非常ニ衰弱スルシ三齡ニ硬軟ノ中庸ヲ得タル適葉ヲ給スレ
バ蠶齡ニ伴フテ漸次適葉ヲ給スルコトニナルカラ成績ハ頗ル佳良デア
ル若シ
三齡ニ適葉ヲ給スル見込ノ付カヌ時ハ一齡ヨリ稍硬目ノ桑ヲ用ヒテ飼育スレ
バ三齡ニ比較的硬葉ヲ以テ飼育シテモ支障ナク經過セシムルコトガ出來ル三
齡用桑ノ硬軟ハ實ニ夏秋蠶ノ作柄ニ大影響ヲ來スモノデア
ルカラ細心ノ注意
ヲ拂ハネバナ
ラヌ。

夏秋蠶飼育上最モ注意ヲ要スルハ就眠ヲ齊一ナラシムルコト、停食ヲ可成夕
方ニ行フ様ニスルコトデア
ル俗ニ謂フ夜ヌギニ就眠スルト全蠶兒ノ約半分ハ
午後十二時頃マデニ就眠シ殘リノ半分ハ翌朝ヨリ就眠スルコトニナリ二口ニ
分ケテ飼育セネバナ
ラヌノミナラズ晝間最モ高温ノ時ヲ就眠期デ過スコト、

ナルカラ蠶兒ノ疲勞スルコトハ實ニ烈シイモノデアアル元來蠶ハ變温動物ナルガ故ニ常ニ體温ハ氣温ト伴フテ僅カニ氣温ヨリ一度位シカ高クナイノデアアルガ就眠中ハ氣温ヨリ三度―四度位高クナルモノデアアル蠶ハ九十八度ノ温度ニ遭遇スルト殆ンド疾病狀態ニ陥ルモノデ若シ一就眠中ノ氣温ガ九十五度ニ昇ツタ場合ハ體温ハ九十八度以上ニ達シ病狀ヲ呈スルコト、ナルノデアアル殊ニ眠中ハ給桑ヲ行ハヌノデ蠶座ノ温度ヲ下降セシムル手段ガ無イカラ一層危険デアアル故ニ停食ヲ夕方ニ行ヘバ就眠中ハ夜間冷涼ナル氣温内ニテ經過シ翌日正午頃氣温ノ上昇シテクルマデニハ餉食スルコトガ出來ルカラ極メテ安全デアアル。

蠶兒ノ食慾ニハ先天的食慾即チ天性ノ食慾ト後天的食慾即チ習慣性ノ食慾トガアル此先天的食慾トハ蠶兒ガ體力ヲ維持スル上ニ於テ必須ナル食慾デアツテ後天的食慾トハ飼育者ノ流義ニヨツテ習慣的ニ惹起セシムル食慾デアアル故ニ給桑ハ先ズ先天的食慾ノ發動シタル時期ニ給與スルヲ第一トセナケレバナ

ラヌ斯ノ先天的食慾ノ發動時期ハ普通午前十時ト午後五時ト午後十一時トノ三回デアアル即チ午前十時ニ起ル食慾ハ晝間高温ニ際シ體力ノ消耗ニ備フルモノデ午後五時ノ食慾ハ晝間消費セラレタルにねるぎ―チ恢復セントスルモノデ午後十一時ニ發動スル食慾ハ體內ニ營養分ヲ蓄積スルモノデアアル去レバ以上三回 食慾發動期ニハ營養ニ富ンダ桑葉ヲ充分ニ與フルコトガ肝要デアアル其他ノ時期ニ於ケル給桑ハ前三回ノ給桑不足ノ場合ニ之ヲ補フノト給桑ニヨツテ蠶座ノ温度ヲ多少下降セシムル手段ニ過ギヌノデアアル予ノ實驗ニヨレバ午前六時午後二時午後八時頃ハ食慾最モ緩慢ナ時期デアツテ同ジ三回給桑ヲ行フテモ午前十時午後五時午後十一時ノ三回給桑ト午前六時午後二時午後八時ノ三回給桑ヲ比較シテ見ルト何時モ前者ハ後者ヨリ良好ノ結果ヲ示シテ居ル故ニ適當ナル給桑時期ニ際シ給桑ヲ行フコトハ最モ重要ナル事柄デアアル而シ予ハ三回給桑ヲ以テ足レリト云フモノデハナイ夫レハ人間ガコレデ充分ナリト考ヘテ給與シタ桑ガ蠶兒ニ對シテハ充分デナイ場合ガ有ルカラ主要給桑

一回ニ對シ補助給桑一回即チ一日六回位ノ給桑ヲ行ヘバ稚蠶飼育トシテ頗ル安全ノ方法ナリト謂フコトガ出來ル。

以上ハ夏秋蠶飼育上不作ノ因ヲ惹起スル主ナルモノデアルト信ズルノデアアル

第一節 適良ナル夏秋蠶飼育法

夏秋蠶ハ前節述べタルガ如キ原因ニ依リテ往々不作ノ悲運ニ際會シ利害ハ別トシ人中へ顔出シモ出來ヌ様ナ破目ニ陥ル養蠶家が相當存在スルノデアアル去レバ現今各流各派ノ飼育法ガ創案セラレ養蠶家ハ之レガ取捨選擇ニ迷ヒ其ノ何レヲ採ルモ不作ハ依然トシテ相繼グトイフ状態デ今ヤ夏秋蠶飼育法ハ五里霧中ニ彷徨セントシツ、アル様ナ次第デアアル茲ニ於テ適切安全ナル夏秋蠶飼育法ヲ社會ニ提供スルコトハ實ニ刻下ノ急務ト謂ハネバナラヌ飼育法ハ啻ニ蠶兒ノ生理的状态ノミニ重キヲ置ク事ハ出來ヌ必ズ一面ニ於テ經濟的ニ有効ノ方法ヲ加味セネバナラヌ換言スレバ衛生經濟兩全ノ方法デ無クテハナラヌ濕布育ハ即チ此ノ兩全ノ飼育法デアツテ一度濕布育ノ世ニ顯ル、ヤ轟然トシ

テ水ノ低キニ流ル、ガ如ク全國ニ喧傳セラレ一度濕布育ヲ行ヒタル養蠶家ハ恰モ暗中ニ燈火ヲ得タルノ感ヲ抱クニ至ツタノデアアル滋賀縣ノ如キハ同縣蠶業試驗場ノ指導誘掖ニ依リテ坂田、東淺井ノ兩郡ヲ始メ各郡ニ普及シ我が三重縣ニ於テモ志摩、河藝、三重、飯南、度會等ノ諸郡ヲ始メ縣下一圓濕布育ヲ試ムルニ至リ夏秋蠶飼育ハ之レ濕布育ナリト評スルニ至ツタノデアアル而シテ予ハ如何ナル年柄ニモ將全國何レノ土地ニモ濕布育ガ萬能ノモノナリト斷言スルモノデハナイ、高温乾燥ニシテ加之モ海岸地方及平坦地方ニハ最モ効果多ク冷涼ナル山間地方ニハ其ノ効果少キヲ認ムルモノデアアル然レモ俗ニ土用蠶ト稱スル八月中掃立ノ蠶ニハ殆ンド全國津々浦々マデ効果アルヲ信ジテ疑ハザル次第デアアル。

三重縣蠶業試驗場ニ於テ大正十三年行ツタ濕布育ト普通育トノ比較成績ハ次ノ通りデアアル。

第一回	經過日數	五齡盛蠶 體量(二〇〇頭)	減蠶歩合	上繭一升顆數	繭量一匁 收繭量
普通育	二〇、〇三	九九、七	二〇、三	一九一	二、九〇五
濕布育	二〇、〇三	一〇五、〇	一二、七	一八七	三、五〇〇

一、掃立月日 七月十三日

一、飼育中平均温度 七九、四^度 平均濕度 八四、三[%]

一、供試蠶種 二化性 四元雜種

第二回	經過日數	五齡盛蠶 體量(二〇〇頭)	減蠶歩合	上繭一升顆數	繭量一匁 收繭量
普通育	二二、〇三	一一二、〇	一七、八	一七四	二、七二二
濕布育	二〇、〇三	一二六、三	一一、一	一七四	二、九八四

一、掃立月日 八月十三日

一、飼育中平均温度 七九、六 平均濕度 七九、九[%]

一、供試蠶種 一化性二化性三元雜種

右ノ如ク二回共ニ濕布育ハ普通育ニ比シ良好ノ成績ヲ示シテ居ル尙滋賀縣、鳥取縣兩蠶業試驗場ノ成績モ亦濕布育ハ佳良デアル更ニ製糸試驗ヲ行ツテ見タ處ガ次ノ様ナ成績ヲ示シタ。

品種	飼育法別	絲量	繰絲時間	備考
國富 × 浙江	標準區 濕布區	一九、九 ^匁 一九、九	一〇〇〇 ^分 九〇	乾繭六二匁ニ對スル成績ナリ
國蠶支九號 × 國蠶支一〇一號	標準區 濕布區	二〇、九 二〇、〇	九一 九〇	
國蠶日一〇六號	濕布區	二一、〇	九〇	

以上ノ如ク飼育成績及製絲成績共ニ濕布育ハ優位ヲ占ムル點ヨリ見ルモ實ニ適良ナル夏秋蠶飼育法ナリト斷ジ得ルノデアアル故ニ予ノ實驗セル濕布育ヲ紹介シ以テ當業者諸士ノ參考ニ供セムト考ヘタ次第デアアル。

第一章 濕布育ノ特徴

濕布育ノ特徴ハ蠶座ノ温度ガ室内温度ニ比シ常ニ三度乃至五度低キコト、山桑系ノ如キ比較的水分少キ手觸粗硬ノ桑葉ヲ給與シテモ蠶ガ之ヲ喰ヒ盡スマ

デ生々トシテ居ルコト、稚蠶中給桑量ニ於テ三割以上節約シ得テ且蠶兒ノ體
量重キコト、給桑回数少クシテ蠶兒ニ飽食セシメ得ルコト、一二齡中ノ桑葉
節約ニヨリ三齡用桑ヲ豊富ニ得ラル、コト、眠起ノ齊一ナルコト、就眠ノ夜又
ギテ防止シ得ルコト、勞力ヲ節約シ得ルコト、飼育中減蠶數少キヲ以テ收繭量
多キコト、絲量豊富ナルコト等ハ其ノ重ナルモノデアアル。

第一節 陽氣ノ調節

蠶ハ陽氣ノ蟲ト稱セラレ陽氣ノ良否ニヨツテ其ノ作柄ニ直接至大ノ影響ヲ齎
スモノデアアル殊ニ夏秋蠶期ノ如キハ陽氣ノ變動ガ特ニ著シイモノデ之ガ調節
ヲ計ルハ難事中ノ難事ト謂ハネバナラヌ從來僅カニ日覆ヲ設ケル位ガ陽氣調
節ノ關ノ山デアアル然ルニ濕布育ハ濡レタル天幕内ニ生活セシムル方法デアアル
カラ高温ノ場合ハ勿論假令降雨ニ際シテモ少量ノ火力ヲ用ヒテ室内空氣ノ交
流ヲ圖リ濕布ヲ行フ時ハ蠶兒ノ食欲ハ晴天日ト異ル事無ク寧ろ蠶座ノ乾燥狀
態ハ適良デ且清潔デアアル氣温ガ九十五度以上ニ昇ル時ニハ濕布内ハ五度低ク

九十度位ノ時ハ四度低ク八十五度位ノ時ハ三度低イ濕布内ノ濕度ハ乾濕球示
度ノ差二度―三度位デ稚蠶飼育ノ温度トシテハ實ニ詭ヘ向キデアアル殊ニ濕布
ハ外氣ノ急激ナル變動ヲ傳ヘル事ガ鈍イカラ濕布内ノ空氣ハ常ニ平穩無事デ
恰モ小春日和ニ瀬戸内海ヲ汽船デ巡航スル様ナ氣分デアアル其ノ證據ニハ就眠
シテ停食スルノガ殆ンド夕方デ眠中ヲ夜分ノ冷涼ナル時ニ經過シテ仕舞フノ
ニ徴シテモ明カデアアル陽氣ガ良ケレバ蠶ハ何時デモ滿作デアアル濕布育ノ長所
此處ニアリト謂ハネバナラヌ。

第一節 安全ナル稚蠶飼育

稚蠶飼育ノ完全ナルト否トハ蠶作ノ善惡ニ重大ナル關係ノアルコトハ今更喋
々ヲ要セヌ問題デアアル然ルニ稚蠶飼育ハ大切デアアルト言ヒナガラ不知不識ノ
間ニ經過セシメテ壯蠶ニ達シ其ノ缺陷ノ現ハル、ニ及ビ始メテ前非ヲ悟ルガ
如キ愚ヲ演ズルモノ決シテ尠クナイノデアアル殊ニ一齡中ニ於テ一層其弊ガ有
ル現今飼育スル日支交雜種ノ體量増大割合ヲ調査シテ見ルト蟻蠶ニ對シ一齡

ノ盛蠶ハ十六倍ノ重サニ成リ二齡ノ盛蠶ハ一齡盛蠶ノ六倍ニナリ以後各齡毎ニ前齡ノ盛蠶ニ比シ約五倍宛ノ增量ヲ成スモノデアル去レバ一齡中增量率ハ他ノ各齡ノ三倍以上ニ達スル所ヨリ推察スルモ如何ニ營養ノ吸收ガ猛烈デア
ルカ、明カデアアル蠶兒ニ營養ヲ吸收シ易カラシムルニハ蠶室内ノ温度ガ高キ
ニ失セザルコト、乾燥ニ過ギヌコト、蠶座ガ清潔デアアルコト、消化シ易キ桑
葉ヲ給スルコト、食慾發動ノ時期ヲ違エヌ様ニ給桑スルコト、蠶兒ガ密着シ
テ皮膚ノ壓礫ヲナサシメヌコト等ガ重ナルモノデアアル

濕布育ヲ行フト前節ニ述ベタ様ニ濕布内ノ温度ハ蠶室内ノ温度ヨリ五度―三
度低イシ濕氣ハ常ニ乾濕球示度ノ差ガ二度―三度デアアルカラ蠶兒ノ發汗作用
ヲ緩和セシムルト共ニ體力ノ消耗ヲ防ギ蠶座ノ醱酵スル事ガ無イカラ清潔ヲ
保チ得ベク給桑ハ萎凋セナイノデ全部ヲ食ヒ盡スシ食慾發動ノ時期ヲ充分見
定メテ給桑スル事ガ出來ルシ又蠶兒ガ蠶座ニ平等ニ擴ガツテ居ルノデ皮膚ノ
壓礫シテ疲勞スル虞ガナイト云フ状態デ如何ニモ心持良ク發育スルノデアアル。

現今夏秋蠶稚蠶飼育法ハ幾多アルケレモ恐ラク濕布育ノ如キ安全ナル方法ハ
有ルマイト信ズルモノデアアル。

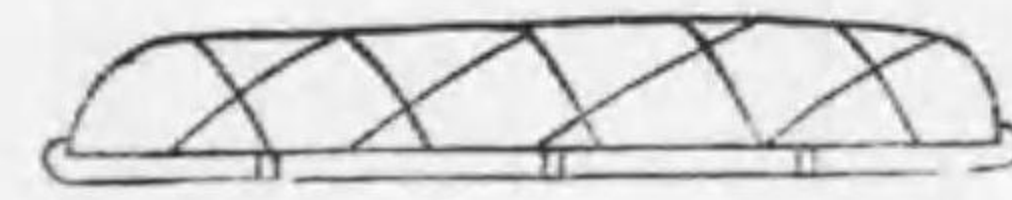
第二章 濕布育ニ要スル器具

濕布育ハ前述ノ如キ偉大ナル効果ヲ有スル飼育法デアアルガ而シ之ニ要スル器
具ガ複雑デアツテ又經費ヲ多ク要スルモノデアアルト餘リホ勸メスル事ハ出來
ヌ事トナルガ器具ハ至ツテ簡單デ經費ハ要セズ濕布育ニ要スル器具ハ覆籠ト
綿布トガ有レバヨイ若シ三齡迄濕布育ヲ行フ場合ニハ室内ヲ南北兩側ニ張ル
幕ガ有レバ結構デアアル。

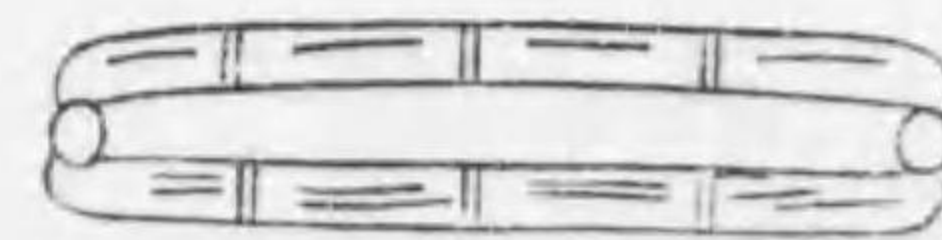
一、覆籠ハ竹又ハ針金デ作ツタモノヲ用ユルノデアアル其ノ大イサハ蠶箔ノ周
緣ノ内部ニ箆マル位ノ大サデ即チ蠶籠ノ長サ三尺五寸巾二尺五寸ノモノヲ
用フル地方ナレバ覆籠ノ大サハ長サ三尺二寸巾二尺二寸位ノモノデ高サハ
二寸ガ良イ濕布育ハ蠶兒ト濕布トノ間隔ガ一寸五分ヲ最モ適當トスルノデ
覆籠ノ高サ二寸トスルノデアアル(第一圖)籠目ノ大サハ五寸位デ充分デアアル

竹製ノ蠶箔ヲ用ユル地方ナレバ別ニ覆籠ヲ作ル必要ハナイ蠶箔ノ内面ニ徑一
寸五分位ノ丸竹カ又ハ卷藁 長サ二尺二寸ニ作り之ヲ細イ針金デ結ビ付ケテ
蠶箔ニ足ヲ作ツテ之ヲ蠶座上ニ覆フコトニスレバ良イ要スルニ覆籠ハ如何ナ
ル材料デアツテモ蠶兒ト濕布ノ間隔チ一寸五分トシ蠶箔ノ表面ヲ全部包覆ス
ル濕布ヲ掛ケルコトガ出來レバ良イノデアアル。

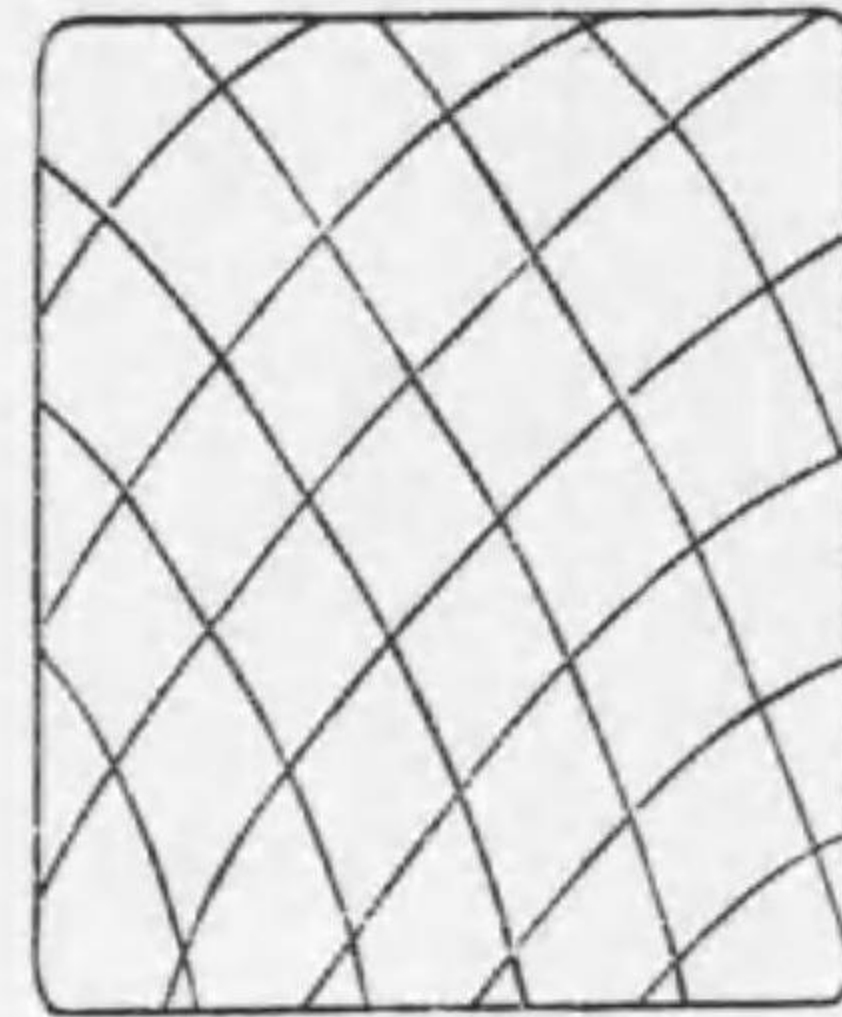
面側ノ籠覆



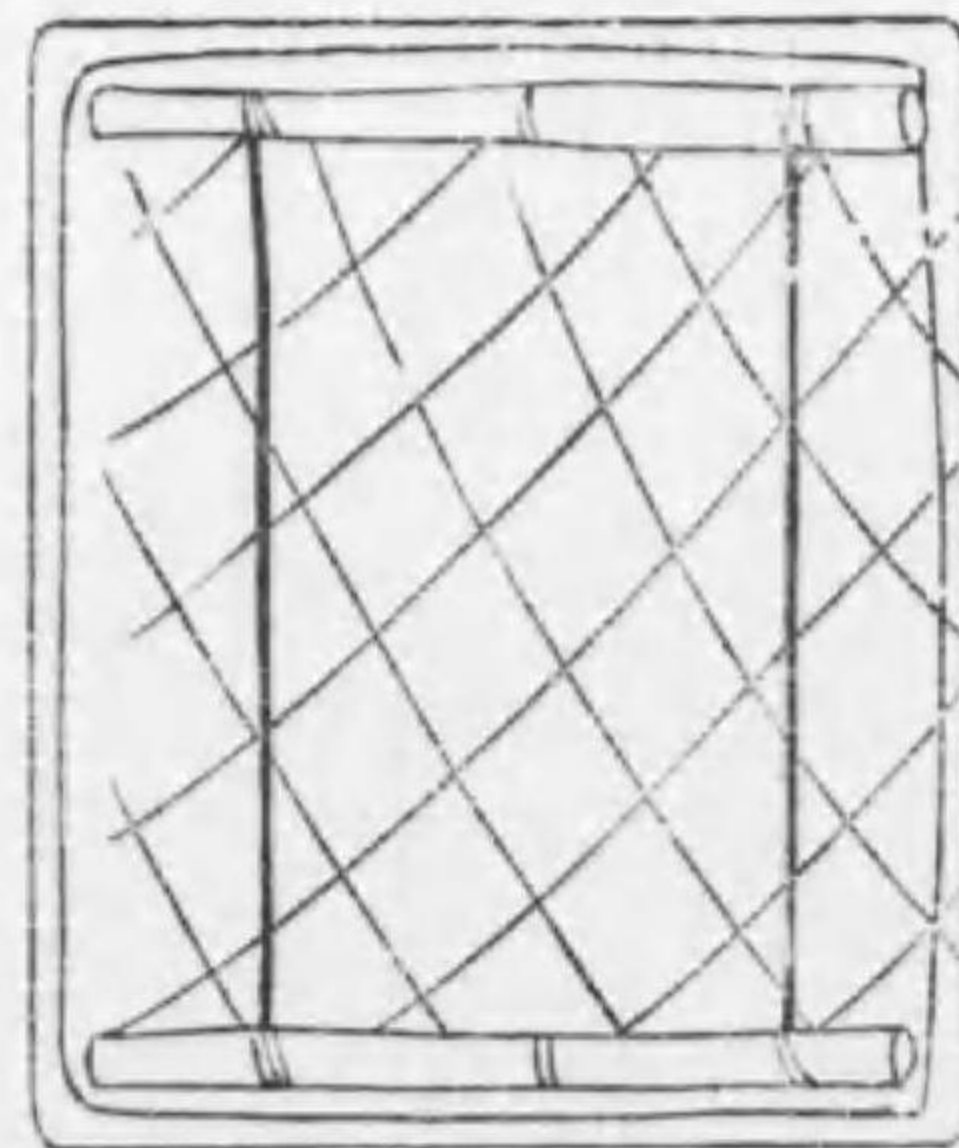
面側ルセ用代ニ籠覆ヲ箔蠶



面平ノ籠覆



面平ルタケ付結ヲ竹丸ニ箔蠶



一、綿布、ハ可成厚地ノモノガ良イ薄地ノモノデアルト一日濡ラシテモ直グ
乾イテ濕布ノ効果ガ少イカラデアアル故ニ大巾ノ天竺木綿ヲ用ユルヲ普通ト
スルガ極ク安イモノナレバメリケン粉ノ袋ヲ利用シテモ宜シイ大サハ覆籠
全部ヲ包メル丈ケデヨイカラ長サ三尺八寸巾二尺八寸位アレバ充分デアアル
一、幕、室濕布ヲ行フ場合必要ナルモノデ北側ト南側トノ兩方ニ垂下セシメ
ル様ニ設備シ開閉ニ便スル爲メ引キ幕トスレバ良イ即チ給桑ノ度毎ニ此幕
ヲ噴霧器又ハ霧吹き手押唧筒ノ類デ濡ラスノデアアル。

以上三點ノ器具ガ有レバ他ニ何物モ必要ハナイノデアアル。

第四章 濕布育ノ實際

予ノ濕布育ト稱スルハ一二齡間蠶兒ヲ飼育スル蠶箔ニ對シ濕布ヲ覆ヒ飼育シ三齡間ハ飼育室ニ濕布幕ヲ張り其ノ室内ニテ飼育シ四五齡ハ普通育ヲ行フ方法ヲ謂フノデアアル飼育蟻量少キ場合ハ三齡迄蠶箔濕布ヲ行ヒ四五齡ヲ普通育トスレバ一層妙デアアル。

第一節 掃 立

現今行ハル、蠶兒ノ掃立法ニハ打落法、糠掃、紙掃、網掃等ノ方法ガ有ル其内濕布育ヲ行フ掃立法トシテハ糠掃又ハ網掃ガ最モ當ヲ得テ居ルノデアアル御承知ノ如ク現時一般行ハル、日支交雜種ハ腹脚基部ノ皮膚ガ薄イノト餉食當時ニ食欲ガ猛烈ニ發動スルモノデアアルカラ掃立當時ニ蠶兒ノ皮膚ヲ傷害セヌ様ニスルコト、食桑ヲ遺憾ナカラシムル事ハ頗ル大切ノ事柄デアアルカラ掃立ハ斯様ニ進メテ行クノガ合理的デアアル。

先ズ臺紙ノ包紙ヲ開キ臺紙ノ裏ニ附着スル蟻蠶ハ之ヲ奇麗ニ掃キ去リ孵化セル蟻蠶ノ附着セル臺紙ヲ其儘敷紙上ニ靜置シ其表面ニ燒糠ヲ薄ク撒布シ第一回ノ給桑ヲ行ヒ周圍ニ散亂セル蟻蠶ハ其儘トシテ第二回給桑ノ際周圍ニ散亂セル蟻蠶ヲ輕ク臺紙上ニ掃キ入レ給桑ヲ行ヒ綿布ヲヨク濡シテ覆ヒ第三回ノ給桑ヲ待ツノデアアル而シテ第三回目ノ給桑ヲ行ヒ二、三時間ヲ經過シ給桑ノ約半分ヲ食シタル頃臺紙ヲ拔キ取ル方法ヲ講ズルノデアアル即チ臺紙ノ手前ニ當ル方チ一寸位持チ上ゲ羽箒ヲ以テ臺紙ノ周邊ヲ五分位藜沙ト共ニ掃キ寄せ置キ羽箒ヲ臺紙ト藜沙トノ境ニ突キ込ミ少シ持チ上ゲルト既ニ二三回給桑シタ後デアアルカラ藜沙モ相當出來テ居ルノト未ダ給桑ガ半分程残ツテ居ル時デアアルカラ臺紙上ノ蠶座ハ良ク連結シテ上ツテ來ルソコデ左ノ手デ臺紙ヲ搖リナガラ拔キトルト少シモ蠶座ヲ壞スコトナク又蠶兒ヲ更ニ傷害スルコトナク尙孵化當時ノ食欲ヲ抑壓スルコトナク極メテ簡便ニ掃立ガ出來ルモノデアアル此處デ目的ノ蠶座面積ヲ作ルコトニスル之ガ糠掃デアアル掃立ニ燒糠ヲ用フレバ

燒糠ハ消毒ガ完全ニ出來テ居ルノト蠶兒ノ皮膚ヲ傷害セヌカラデアアル。
 網掃ヲ行フニハれ一す網ヲ用ユルノガ便利デアアル彼ノ麥稈帽子ノ内面ニ張ツ
 テアル綿絲製ノ六角目ニ編ミタル網ノコトデ之ヲ丁度臺紙ニ符號スル大サニ
 切り兩端ニぼーる紙ノ幅五分位ノモノヲ糊付ニシ持チ上ゲルニ便利ナル様ニ
 シ之ヲ孵化セル蟻蠶上ニ覆ヒ給桑スルコトニ回後網除沙ヲ行フト同様ニ他へ
 移セバ掃立ガ出來タノデアアル斯クスレバ蟻蠶ヲ傷ケルコトモ無ク食欲ヲ障害
 スルコトモナク掃立テルコトガ出來ルガ唯蠶座ノ面積ヲ自由ニ出來ヌ不便ガ
 アル。

之ヲ要スルニ現時ノ掃立法ハ糲糠ト蟻蠶トヲ攪拌シテ皮膚ヲ損傷スル様ナ亂
 暴ナ掃立ヲ行フテハナラヌ若シ掃立ノ際蟻蠶ヲ攪拌スルト腹脚ノ基部ヲ傷ケ
 其處ガ黒クナツテ俗ニ足黒ト稱スル微粒子病ニ犯サレタ蠶ニ良ク似タモノガ
 澤山出來ルコトニナル何ト謂フテモ掃立及其ノ當時ノ取扱法ノ良否ハ蠶一代
 ノ生命ヲ左右スル重大ナル要件デアアルカラ周到ノ注意ヲ拂ハネバナラヌ。

第二節 蠶座

蠶ヲ厚飼ヒニスルノト薄飼ニスルコト、ハ種々利害ノ伴フモノデアアルガ殊ニ
 經濟上關係ヲ及ボスコトガ多イノデアアル而シ蠶座ノ面積ハ稚蠶期ト壯蠶期ト
 ニヨツテ其ノ目的ヲ異ニセネバナラヌ即チ稚蠶期ハ主トシテ蠶ノ生理ヲ基礎
 トシ壯蠶期ハ經濟ヲ主トスル方法ヲ採ルノガ合理的デアアル今蠶兒一匁ノ體積
 ガ如何ニ増大スルカラ調ベテ見ルト次ノ通りデアアル。

蠶	齡	體積	體積増大割合	
			對前齡	對後齡
一	齡	〇、二五	一	一
二	齡	一、〇〇	四	四
三	齡	三、〇〇	二	三
四	齡	八、〇〇	三	七
五	齡	二七、〇〇	一	〇八
五	齡	七五、〇〇	三	〇〇

以上ノ如ク體積ヲ増大スルカラ蠶座上ニ更ニ餘地ヲ與エズシテ飼育スルトセ

バ前表體積ノ面積ヲ與フレバ良イコトニナルガ而シ現今一般ニ飼育セララル、外國種ノ交雜種ハ皮膚ノ極メテ傷害シ易イモノデアアルカラ稚蠶中ノ如ク體質ノ特ニ弱キ時ハ相當ノ空地即チ運動場ヲ與フル必要ガアル而シテ其ノ最適當ナリト認メラル、餘地面積ハ一齡中ニアリテハ蠶兒體積ノ二倍二齡中ハ一倍半三齡中ハ一倍四齡中ハ〇、五倍五齡中ハ體積其儘デ宜シイ之ヲ表示スレバ

蟻	蠶
一 齡 盛 蠶	〇、七五 ^{キカラ}
二 齡 盛 蠶	三、〇〇
三 齡 盛 蠶	七、五〇
四 齡 盛 蠶	一六、〇〇
五 齡 盛 蠶	四〇、〇〇
	七五、〇〇

斯ノ如ク擴座シテ行ケバ稚蠶中ノ蠶兒ガ虛弱デ而モ箔數ノ少イ時ニ薄飼トナリ生理上最モ當テ得ルノミナラズ經濟上ヨリ見ルモ更ニ苦痛ハ無ク壯蠶ニナ

ツテ蟲質強壯トナリ箔數ノ増加セル時ニ於テ厚飼ニナルカラ是又生理經濟ノ兩方面ニ支障ナキ方法デアアル尙擴座ノ時期ハ少食期カラ中食期ニ移ル時及盛食期ノ始メニ行フノガ合理的デアアル即チ擴座ハ蠶兒ガ體積ヲ増大セヌ以前ニ行フノガ順當デアツテ充分成長シタル後ニ行フノハ時既ニ遲シト謂ハネバナラヌ。

第三節 給 桑

給桑ハ蠶兒飼育上ノ一大要件デアツテ之ガ適否ハ直チニ蠶作ノ豊凶ニ關係チ及ボスノミナラズ養蠶經濟上ニ至大ノ影響ヲ來ス次第デアアル故ニ養蠶法ハ即チ給桑法ナリト解釋スベキモノデアアル茲ニ於テ給桑ニハ深甚ノ注意ヲ拂フト共ニ蠶兒ノ食慾ニ對スル觀念ニ誤ナキヲ期セネバナラヌ。

給桑上注意スベキ點ハ適當ナル飼料ヲ適當ナル時期ニ適當ナル分量ヲ給與スル事デアアル飼料ニ就テハ前章已ニ之ヲ述ベテ置イタカラ充分御了解ノ事デアアルト信ズル故ニ茲ニ省略シテ適當ナル給桑時期ニ付テ述ベテ見ヨウ元來蠶兒

ノ食慾ニハ天然の食慾ト習慣的食慾トノ二種アルヲ推定スルコトガ出來ル昆蟲類ノ本性ハ夜間ノ食慾旺盛ニ發動シテ晝間ハ殆ンド食慾ノ起ラザルモノデアル桑樹ノ金毛蟲ヤ尺蠖ガ晝間葉ノ裏面ヤ樹ノ株際ニ潜居シテ夕方以後ニ蠶食スルヲ見テモ明カニ之ヲ證明スルモノデアアル蠶モ昆蟲デアル以上ハ之ト同様ノ本性ヲ有スルニ相違ナキモ家内ニテ飼育セラル、結果ハ天然状態ニ措カラル、ト多少ノ相違ヲ來スハ之又明カナル事實デ蠶ハ必ず午前中ニ一回猛烈ナル食慾ヲ發動スルモノデアアル其時期ハ午前十時前後デアアル之ハ午後俄カニ温度ノ上昇ニ對シ消耗スル體力ヲ維持セントスル食慾ニ外ナラヌ而シテ其次ニハ午後六時頃ヲ中心トシテ發動スル之ハ晝間高温ノ際消耗セラレタル勢力ヲ恢復セントスル食慾デ其次ハ午後十一時ノ中心トシテ起ル食慾デアアル之ハ體ノ發育並ニ養分ノ蓄積ニ必要ナル食慾デアアル故ニ予ハ以上三回ノ食慾ハ蠶兒ノ必須缺クベカラザル食慾デアアルガ故ニ之ヲ天性的食慾ト認ムルモノデアアル此食慾ヲ満足セシム可キ分量ガ其ノ時期ニ給與出來レバ給桑回数ハ一日三回

デ充分デアアル可キ筈デアアルガ而シ人間ガ充分ナリト思惟シテモ蠶ハ概ネ不充分ノ場合ガ多イカラ此補缺ヲナス可ク適宜ノ時ニ補助桑ヲ給與スル之ガ即チ習慣的ニ食慾ヲ發動セシムル所以デアアル而シテ實際蠶兒ヲ飼育スルニ當ツテ給桑時期ヲ定ムルニハ室内ノ温濕度ト蠶座ノ乾濕前回ノ給桑量經過時間及到桑寸法等ヲ參酌セネバナラヌカラ之等ノ事情ニヨツテ回数ノ増減ヲ行ハネバナラヌ故ニ從來行ハレタ到桑育ノ如キハ盛夏ノ候ニアリテハ一日十數回ノ給桑ヲ行フタモノデアアル然ルニ食桑ハ却テ少ナク往々桑不足ノ弊ニ陥ツタモノデアアル一齡中ノ給桑量ハ食桑量ノ約七倍二齡中デモ約四倍ヲ給與シテ居ル實ニ不經濟此上モナイ方法デ加之モ蠶兒ノ生理ヲ害スルコトガ多イノデアアル濕布育ヲ行フト到桑育ニ比シ一、二齡中ノ給桑量ガ約三割以上省略出來ルノミナラズ給桑回数ハ三分ノ一位デ一日四回又ハ五回デ充分デアリ而シテ蠶兒ノ體量ハ重ク常ニ營養ノ充實セル蠶兒ヲ作ルコトガ出來ル尙稚蠶中ハ山桑系ノ桑ヲ給與スルガ安全デアアルガ普通到桑育デハ蠶兒ガ食ヒ始メルト間モ無ク桑

ハ萎凋スルカラ止ムヲ得ズ魯桑系ヲ用ヒネバナラヌ事ニナル然ルニ濕布育ニ
スルト山桑系ノ桑葉デモ皆食ヒ盡スマデ青々トシテ居ルカラ給桑量及回数ヲ
減ジテ營養ヲ充實セシムルコトガ出來ル理デアアル。

第四節 濕布育ノ給桑法

濕布育ニ用フル給桑ノ剉桑寸法ハ一齡四、五分角二齡ハ七、八分角三齡ハ切放
シノ程度ガ適當デアアル給桑時期ハ高温乾燥ノ場合ハ一日五回普通ノ場合ハ一
日四回デアアル五回ノ場合ハ午前五時同十時午後二時同六時同十一時デ四回ノ
場合ハ午前五時同十一時午後四時同十時デアアル而シテ濕布ヲ覆フノハ午前五
時ノ給桑ヨリ初メ午後六時ノ給桑後二、三時間デ午後十一時給桑ニハ濕布ヲ
覆ハヌノガ安全デアアル先ヅ午前五時ニ給桑ハルト第三章ニ述ベテ置イタ覆籠
ヲ座上ニ覆ヒ其上ニ濕布ヲ覆ヒ次回ノ給桑約一時間前ニ之ヲ取り去ルノデア
アル此ノ濕布ヲ除去シタル時ハ蠶兒ハ丁度食桑ヲ終リ休憩状態ヲ示シテ居ルガ
約三十分位經過スルト靜カニ運動ヲ始メ一時間位經ルト頭部ヲ左右ニ動カシ

テ盛ンニ食ヲ求メルニ至ルカラ其處デ午前十時頃給桑スルノデアアル此時ノ濕
布ハ水滴ノ垂下セヌ程度ニ絞ツタ充分水ヲ含有セル布ヲ覆フノデアアル斯クシ
テ次回ノ給桑約一時間前ニ濕布ヲ除去シ午後二時頃給桑シ午前十時ノ時ト同
様ノ濕布ヲ覆ヒ次回給桑一時間前ニ濕布ヲ除去シ午後六時ノ給桑ヲ行ヒ前回
ト同様ニ濕布ヲ覆フノデアアル午後六時給桑ノ際覆ヒタル濕布ハ午後九時頃迄
ニ至リ取り去ツテ其後翌日午前五時給桑ノ際マデハ濕布ヲ覆ハヌコトニスル
ノデアアル。

之ヲ要スルニ濕布ハ午前五時ノ給桑ヨリ午後六時ノ給桑マデ用ヒ午後十一時
ノ給桑丈ハ之ヲ用ヒナイ事ニシ濕布ヲシテモ給桑約一時間前ニハ之ヲ除去シ
テ蠶座ノ乾燥ト食慾ノ發動トヲ促ス手段ヲ講ズルノデアアル午後十一時ノ給桑
ノ際濕布ヲ用ヒヌノハ此時分カラ翌日午前五時頃迄ハ概ネ低温多濕デアアルカ
ラデアアルガ高温ノ場合ニハ夜中デモ時々濕布ヲ用フルガヨイ尙午前五時給桑
ノ際ハ毎日燒糠ヲ座上ニ撒布シテ蠶座ノ乾燥ト食慾ノ増進ヲ圖ルガ宜シイ雨

天ノ時ト雖モ矢張り濕布ヲスルガ佳イ其ノ場合ハ室内ニ火鉢又ハ暖爐ニ火力ヲ用ヒテ濕布ノ蒸發ヲ圖ルト覆籠内ノ空氣ハ交流シテ蠶座ノ乾燥ガ適當デア
ルノミナラズ蠶兒ノ食慾ハ大イニ増進スルモノデア
ル。

第五節 濕布育ト催眠ノ取扱

催眠ヲ齊一ナラシムルハ蠶兒飼育上頗ル肝要ノ事柄デア
ル濕布育ハ此ノ催眠ヲ齊エル點ニ於テ極メテ有効デア
ル即チ眠除沙ヲ行フテ第一回ノ給桑ハ必ズ多量ニ給與セネバナ
ラヌ其時濕布ヲ被ヒ約三時間位經過シタル時濕布ヲ取り去リ乾燥ヲ圖ルト蠶兒ハ一齋ニ就眠シテ殆ンド責桑ヲ給與スル必要ガ無イ又催眠ガ夕方ヨリ來ル豫想ガ付ケバ其日ノ朝カラ給桑前一時間毎ニ除去スル濕布ヲ其儘掛ケ通シテ行ケバ一日間ニ約四時間位就眠ガ遅延スルカラ夕方ヨリ午後十二時頃マデニ眠ムル蠶モ遂ニ就眠セズニ翌朝マデ引延バス事ガ出來ル故ニ翌朝五時頃ニ眠除ノ網入ヲスルカ又ハ前夜十一時頃ノ給桑ニ網入ヲ行ヒ翌朝眠除ヲ行フト俗ニ夜又ギト稱スル前日半分就眠スル如キ不始末ヲ演ズル

事ナク一齋ニ就眠セシムル事ガ出來ルノデア
ル之ハ秋蠶ノ豊凶ニ大關係ノ有ル肝要ナル事柄ナリト謂ハネバナ
ラヌ。

第六節 濕布育ト就眠中ノ取扱

就眠中ハ濕布ヲ覆ハヌノガ普通デア
ル而シ蠶兒ガ變温動物デ氣温ガ高クナレバ體温ガ高クナルシ低下スレバ體温モ亦降下スルモノデ常ニ氣温ト體温トガ一致スルモノデア
ル然ルニ就眠スルト蠶兒ノ體温ハ氣温ヨリ約三度上昇スルヲ常トスル故ニ普通養蠶家ガ氣温高キ場合ニ蠶兒ヲ虚弱ニ陥ラシムルハ此就眠中デア
ル若シ眠中ガ丁度晝間ニ遭遇シテ特ニ氣温ノ高キ時ハ濕布ヲ被フト約四、五度氣温ヨリ低下スルカラ蠶兒ガ弱ル虞ガ無イノミナラズ蛻皮ヲ容易ナラシメテ頗ル都合ガ宜シイ而シ起蠶ガ二、三割見エタラ濕布ヲ除去スルノガ起揃ヒガヨイ斯克シテ起揃フノヲ待ツテ餉食スルノデア
ルガ此ノ桑付ノ際ハ必ズ糲糠ヲ撒布シ蠶座ヲ清潔ナラシメ第一回ノ給桑ヲスルノデア
ル之レ蠶兒ガ桑ト共ニ病毒ヲ喰ヒ込ムノハ此時ガ一番多イカラデア
ル故ニ桑葉モ必ズ

新鮮ナルモノヲ用ユルガヨイ而シテ濕布ハ此時カラ被フノデアル。

三四

第七節 濕布育ト第三齡ノ取扱

七月中ニ掃立ツル所謂初秋蠶ト九月ニ入りテ掃立テル晚秋蠶トハ普通一齡二齡中濕布育ヲ行ヘバ充分デアルガ八月中ニ掃立テル所謂土用蠶ト稱スル秋蠶ニハ三齡モ濕布育ヲ行フノガ安全デアル而シ三齡ニナルト蠶箔ノ數モ餘程増加スルカラ蠶箔濕布ハ中々厄介ニナルノデ予ハ蠶室濕布ヲ行フテ居ルノデア
ル蠶室濕布ガ南側ト北側トニ幕ヲ張ツテ給桑毎ニ其幕ヲ濡シテ室内温度ノ低下ト給桑ノ萎凋ヲ防グノデア
ル此場合ノ給桑時刻ハ一二齡ニ準ジテ行ヘバ充分デア
ル斯クシテ四齡五齡ハ普通育ヲ行フノデア
ル。

第五章 濕布育ノ標準

飼育ノ標準ハ著者ノ實驗ヲ基礎トシ一定温濕度ノ下ニ給桑量給桑時刻回數蠶座ノ面積等ヲ例示シタモノデア
ル故ニ土地ヲ異ニシ事情ガ違イ蠶ノ品種相異セル場合ニ於テ之ニ適合セシムルハ甚ダ困難ノ事柄デア
ル故ニ飼育者若シ之

ヲ使用セントセバ必ズ標準表ノ示ス所ノ温度ト濕度トニ注意シ給桑ノ時期回數並ニ分量等ヲ参照シ自家周圍ノ事情ニ鑑ミ若クハ自ラ行ハントスル所ヲ斟酌シテ其ノ應用ニ努メラレンコトヲ望ムモノデア
ル予ノ茲ニ標準表ヲ示シタルハ新規ノ飼育法ヲ行フニ當リ一定温濕度ノ場合ニ於ケル蠶兒經過ノ大要ヲ述ブレバ飼育者ノ作業上便益多キヲ豫想シタ爲メデア
ル。要スルニ標準表ハ一ツノ寶刀ニシテ能ク之ヲ運用セバ以テ大効アル可ク一度活用ヲ誤ル時ハ即チ却テ有害ナルヲ想ハネバナラヌ。

濕布育標準表 (秋蠶蟻量一匁)

齡 一 第					日順
均平計合	日 四	日 三	日 二	日 一	時刻
	一六二〇五	一六二〇五	一六二〇五	一六二〇	
〇 八	〇 八	〇 八	〇 八	〇 八	溫度
九 七	九 七	九 七	九 七	九 七	濕度
間時四日三					回
間時十二	七六五	四三二一〇	九八七六五	四三二一	數
				八六八 四四	一回ノ量
匁八八一	匁二五	匁二七	匁二四	匁二二	全量
		五分	五分	四分 三分	到桑寸法
	停食	網入		擴座	除沙
				一、五	坪蠶座數

齡 二 第				日順
均平計合	日 三	日 二	日 一	時刻
	一六二〇五	一六二〇五	一六二〇五	
〇 八	〇 八	〇 八	〇 八	溫度
九 七	九 七	九 七	九 七	濕度
間時三十日二				回
間時九十	四三二一〇	九八七六五	四三二一	數
	二三四五 四〇二	四四三三二 五〇二四六	二二一一 八四八六	一回ノ量
匁九四四	匁六八一	匁七七一	匁六八	全量
		七分	五分	到桑寸法
	停食	網入	擴座	除沙
			起除擴座	坪蠶座數
	七、〇	七、〇	五、〇 三、〇	

齡 四 第					日 順
均平計合	日 四	日 三	日 二	日 一	
	一七三二八四	一七三二八四	一七三二八四	一七三	時刻
〇八	〇 八	〇 八	〇 八	〇八	溫度
五七	五 七	五 七	五 七	五七	濕度
間時九日三	二二	二二	二二	二二	回
時九十日一	一〇九八七六	五四三二一〇	九八七六五四	三二一	數
	二三四五五	四四三四三	三二二二二	一一一	一回量
	〇〇五五〇〇	五〇五〇五八	〇八五五二五	六四二	〇〇〇〇
匆〇〇五、六	匆〇〇四、二	匆〇三二、二	匆〇五四、一	匆〇二四	全
					量到桑寸法
					全葉
	停 眠 網	擴中	擴中	起 網 分	除 沙
	食 除 入	座除	座除	除 入 箔	坪 蠶
	四、〇	四、〇	三、〇	二一六、〇〇	坪 蠶

齡 三 第					日 順
均平計合	日 四	日 三	日 二	日 一	
	一六二〇五	一六二〇五	一六二〇五	一六二〇五	時刻
〇 八	〇 八	〇 八	〇 八	〇 八	溫度
五 七	五 七	五 七	五 七	五 七	濕度
時十二日二					回
間時五十二	五四三	二一〇九八	七六五四三	二一	數
	八〇三	五三〇二九	〇八六七五	六四	一回量
	〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇五〇五	〇〇	〇〇〇
匆〇七三一	匆〇一三	匆〇九五	匆〇七三	匆〇〇一	全
					量到桑寸法
	八	切	切	切	桑
	分	放	放	放	葉
	停 眠 網	擴中	擴起	網餉	分
	食 除 入	座除	座除	入食	箔
	一六、〇	一六、〇	一二、〇	七、〇	坪 蠶

第 五 齡				第 一 齡				日順時刻
日 三	日 二	日 一	日 一	日 二	日 三	日 四	日 四	日順時刻
一一七三二八四	一一七三二八四	一一七三二八四	一一七三二八四	一一七三二八四	一一七三二八四	一一七三二八四	一一七三二八四	日順時刻
〇 八	〇 八	〇 八	〇 八	〇 八	〇 八	〇 八	〇 八	日平均
五 七	五 七	五 七	五 七	五 七	五 七	五 七	五 七	日平均
一四	八 七 六 五 四 三	二 一						給
一、一〇〇〇	七〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	一回量
〇 〇 〇 〇	〇 〇 〇 〇	〇 〇 〇 〇	〇 〇 〇 〇	〇 〇 〇 〇	〇 〇 〇 〇	〇 〇 〇 〇	〇 〇 〇 〇	全量
匆〇〇四、五	匆〇五二、三	匆〇五八	匆〇五八	匆〇五八	匆〇五八	匆〇五八	匆〇五八	寸法
中除八〇、〇	網入	中除	網入	網入	網入	網入	網入	除沙
								擴座
均平計合	日 六	日 五	日 四	日 四	日 三	日 二	日 一	日順時刻
〇 八	七 四 二 八 四	一 七 三 二 八 四	一 七 三 二 八 四	一 七 三 二 八 四	一 七 三 二 八 四	一 七 三 二 八 四	一 七 三 二 八 四	日順時刻
五 七	〇 八	〇 八	〇 八	〇 八	〇 八	〇 八	〇 八	日平均
間 日 五	三 三 二 二 二	二 六 二 五 二 四 三 二 一	二 九 一 八 一 七 一 六 一 五	二 九 一 八 一 七 一 六 一 五	二 九 一 八 一 七 一 六 一 五	二 九 一 八 一 七 一 六 一 五	二 九 一 八 一 七 一 六 一 五	給
	三 〇 〇 〇 〇	一、九 〇 〇 〇 〇	一、五 〇 〇 〇 〇	一、四 〇 〇 〇 〇	一、三 〇 〇 〇 〇	一、二 〇 〇 〇 〇	一、一 〇 〇 〇 〇	給
匆〇〇〇、三三	匆〇〇二、六	匆〇〇六、九	匆〇〇六、七	匆〇〇六、七	匆〇〇六、七	匆〇〇六、七	匆〇〇六、七	全量
	終 中 熱 除	中 網 除 入	網 中 入 除	網 中 入 除	網 中 入 除	網 中 入 除	網 中 入 除	除沙
								擴座

四〇

第六章 結 論

濕布育ニ關スル眞髓ハ以上各章ニ亘リテ詳説シタ通りデアル而シ予ノ濕布育ヲ養蠶家ニ勸ムル所以ノモノハ夏秋期高温乾燥ノ場合ニ於テ良ク蠶兒ノ衛生ト養蠶經濟トノ兩途ヲ完全ナラシメンガ爲メデアル蠶兒衛生ヲ遺憾ナカラシムルハ稚蠶中ニ於テ適良ナル桑葉ヲ飽食セシメ營養ヲ充實セシムルコト三齡中ニ於ケル桑葉ガ一二齡用桑ト均衡ヲ失セザルコト蠶兒ノ生理ヲ障害スルガ如キ高温ニ觸レシメザルコト蠶座ノ面積ヲ適當ナラシムルコト等其主ナルモノデアアル養蠶經濟上ニ關シテハ蠶兒飼育中ニ於テ可及的癩桑ヲ少クシ桑葉ノ節約ヲ圖ルコト給桑其他ノ努力ヲ節減スルコト減蠶數ヲ少クシ糸量豐富ナル蠶繭ヲ多額ニ收穫スル等ヲ以テ盡セリト謂ハネバナラヌ濕布育ハ即チ之等ノ要項ヲ略完結スベキ合理的飼育ナルヲ信ジテ疑ハザル次第デアル終リニ臨ンデ一言ス可キハ如何ナル飼育法ニ依ラズ優良ナル蠶種ヲ選擇スル事及催青ヲ完全ナラシムルコトハ極メテ必要ノ事柄デアアル。近時山間部ノ飼育分場ヤ朝

四一

鮮ノ如キ大陸的氣候ノ下ニ製造セラレタル蠶種ガ各地デ拔群ノ成績ヲ舉ゲテ
居ル事實ニ徴シテモ蠶種ノ良否撰定ニ製造地ノ氣候ガ一大關係ノ有ルコトヲ
特ニ注意シ此ノ濕布育法ト相俟ツテ豊作ヲ得ルコトニ努メラレムコトヲ一言
附シテ本書ノ終末トスル。

實 驗 濕 布 育 蠶 法

(終)

大正十四年五月二十五日印

刷

大正十四年五月三十日發

行

定價 金五拾錢

不 許
複 製

著 者	佐 々 木 鈴 一
發 行 者	小 谷 武 雄
印 刷 者	橋 本 岩 太 郎
印 刷 所	株 式 會 社 似 玉 堂

發 行 所

京 都 市 東 堀 川 通
出 水 下 ル

東 亞 蠶 絲 株 式 會 社

春蠶種

日一號×支四號
支七號×歐七號

冷蔵種

日一〇七×支一〇九
日一〇七×支一〇九

冷蔵種

日一〇七×支一〇九
日一〇七×支一〇九
日一〇六×支一〇九
新 白×青 熟

全國五百有餘の養蠶組合長の推奨に依り二府三十縣下の養蠶家に愛育せらるゝ強壯無比の

東亞蠶種

不作知らずで一疋も死なぬ
繭は一升一粒の褒高し

未だ其の眞價を御承知なき方は是非御試育下さい弊社は全責任を以て御厚意を空ふせない様に努力致します

京都市東堀川出水下

東亞蠶絲株式會社

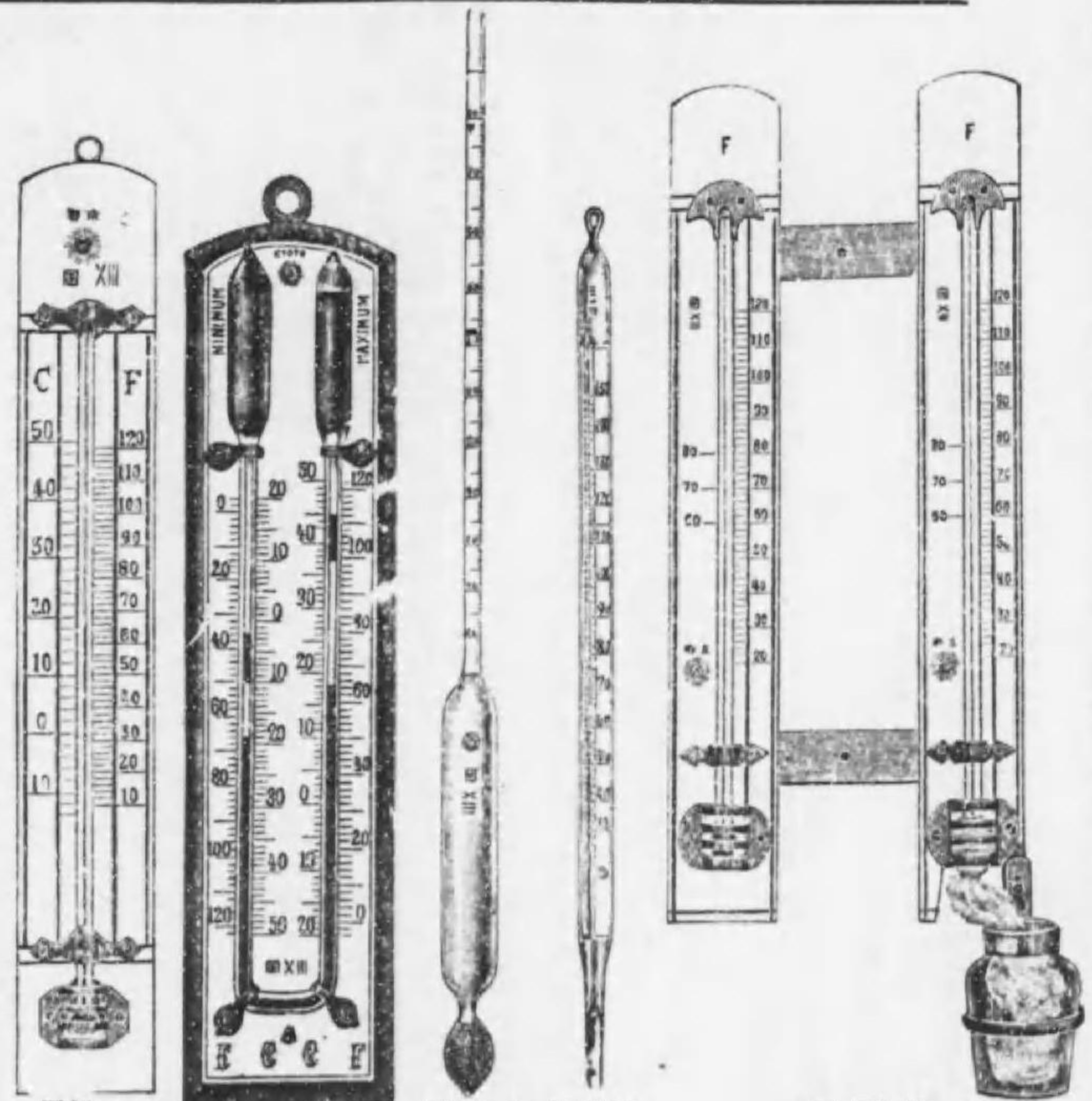
長電話西陣一五一番 振替大阪四三七〇四番

岐阜市元町五丁目

東亞蠶絲研究所

長電話八一七番 振替大阪六九七九八番

高級寒暖計



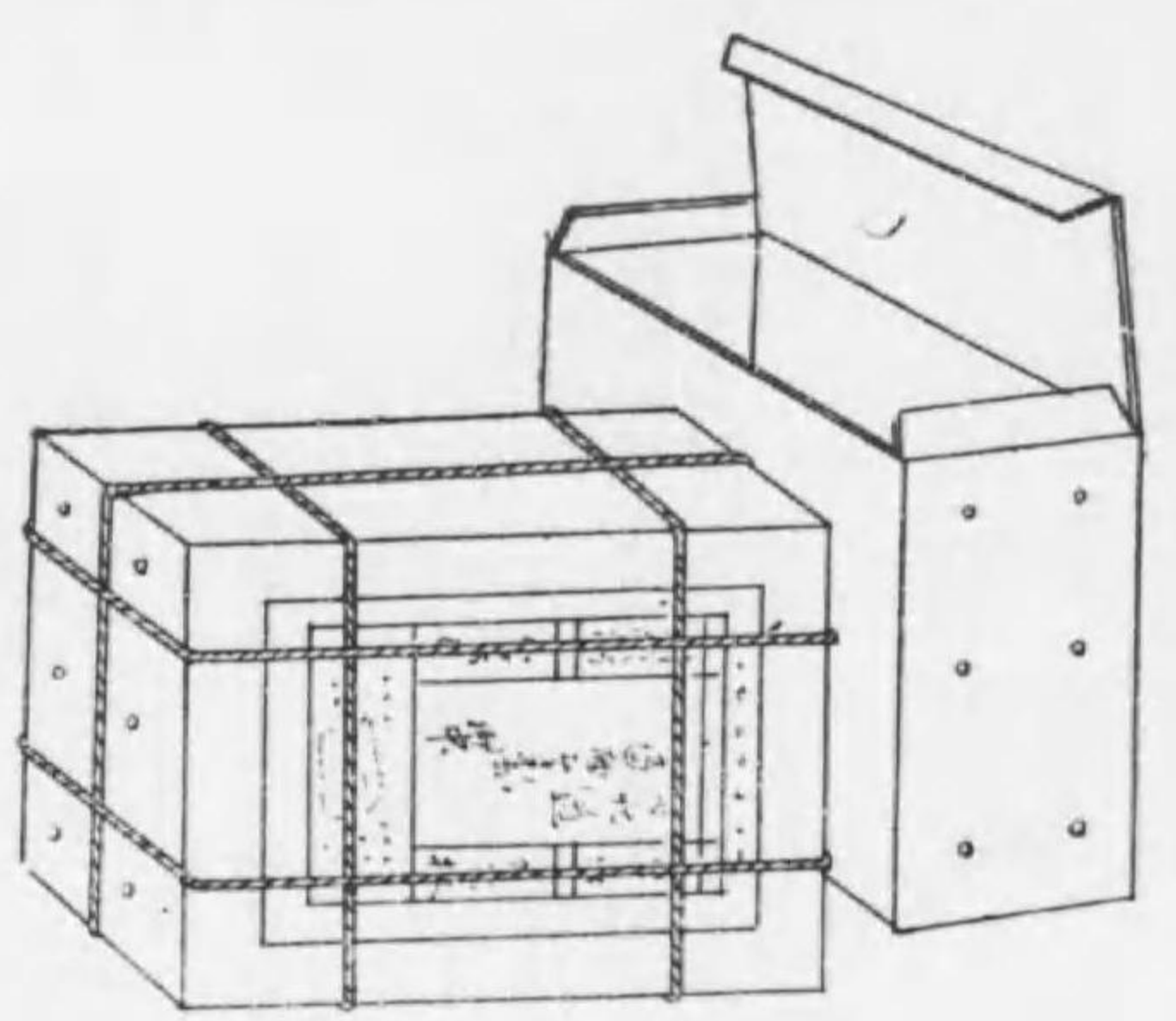
養蠶用 乾濕計 養蠶用 酸浸比計 養蠶用 酸浸溫度計 一般寒暖計

養蠶家、蠶種製造家、製絲家を始め陸海軍各工廠、鐵道省は勿論紡績會社、釀造家石油會社等有ゆる工場に愛用され今や一年廿萬の販賣高を有する弊所の製品は農商務省各府縣廳の推奨に依り全國にわたるの地なき光榮を有す
弊所製品は數ヶ年経るも絶對狂ひを生ずることなく萬一誤差を生したる時は何時にても破損なき限り新品と取替へ其責に任ず

番號	種別	一個賣	一打賣
九〇	乾濕計	二九〇	二九〇〇
一〇	同上	二七〇	二七〇〇
一一	同上	二五〇	二五〇〇
一二	同上	二五〇	二五〇〇
一三	同上	二五〇	二五〇〇
一四	同上	二五〇	二五〇〇
一五	同上	二五〇	二五〇〇
一六	同上	二五〇	二五〇〇
一七	同上	二五〇	二五〇〇
一八	同上	二五〇	二五〇〇
一九	同上	二五〇	二五〇〇
二〇	同上	二五〇	二五〇〇
二一	同上	二五〇	二五〇〇
二二	同上	二五〇	二五〇〇
二三	同上	二五〇	二五〇〇
二四	同上	二五〇	二五〇〇
二五	同上	二五〇	二五〇〇
二六	同上	二五〇	二五〇〇
二七	同上	二五〇	二五〇〇
二八	同上	二五〇	二五〇〇
二九	同上	二五〇	二五〇〇
三〇	同上	二五〇	二五〇〇
三一	同上	二五〇	二五〇〇
三二	同上	二五〇	二五〇〇
三三	同上	二五〇	二五〇〇
三四	同上	二五〇	二五〇〇
三五	同上	二五〇	二五〇〇
三六	同上	二五〇	二五〇〇
三七	同上	二五〇	二五〇〇
三八	同上	二五〇	二五〇〇
三九	同上	二五〇	二五〇〇
四〇	同上	二五〇	二五〇〇
四一	同上	二五〇	二五〇〇
四二	同上	二五〇	二五〇〇
四三	同上	二五〇	二五〇〇
四四	同上	二五〇	二五〇〇
四五	同上	二五〇	二五〇〇
四六	同上	二五〇	二五〇〇
四七	同上	二五〇	二五〇〇
四八	同上	二五〇	二五〇〇
四九	同上	二五〇	二五〇〇
五〇	同上	二五〇	二五〇〇

總發賣元 京都市東堀川出水下 東亞蠶絲株式會社
電話西陣一五一番 振替大阪四三七〇四番

蠶種輸送箱



定價表
二十枚入 一網金八圓五拾錢
三十枚入 一網金拾圓五拾錢
五十枚入 一網金拾七圓五拾錢
百枚入 一網金貳拾圓
(二網は何れも五十個入)

發賣以來湧くが如き好評を得ました東亞式紙製蠶種輸送箱は紙質が堅牢で板箱の如き破損なく輕量にして折疊自由であるが故に輸送便利に且送料板箱の三分の一で宜しい洵に理想的新案品であります見本は送料共金參拾錢で御届けします

特約店—募集

京都市東堀川通出水下

東亞蠶絲株式會社

長電話西陣一五一番 振替大阪四三七〇四番

京都高等蠶業學校御證明

人工孵化用鹽酸(亞壹號) 定價 五十磅入 金七圓也

人工孵化用として純良鹽酸の必要なることは茲に贅言を要せざる所なり然るに當業者中には往々粗悪なる工業用鹽酸を用ひて思ひ圖らざる大損害と不名譽とを受け而かも尙顧みざる向あるは甚だ遺憾なり不良鹽酸を使用し假令一枠分の蠶種にても死に至らしめんか百圓や百五十圓の損害にては濟まざるべし弊社に見る所あり鹽酸製造會社と特約し特に人工孵化用鹽酸を製造し今回汎く之を販賣すること、せり(一)號鹽酸は京都高等蠶業學校の御證明品にして人工孵化用として理想的なり安心の上是非御使用あらんことを切望す尙一瓶毎に京都高等蠶業學校專任教授の檢定を希望せらる、向に對しては特別御希望に添ふべく申越を乞ふ

京都高等蠶業學校 荒木武雄先生校閲
 京都高等蠶業學校 奏專章先生校閲
 東亞蠶絲研究所長 三田伊三郎先生著述

人工 浸酸種製造法

定價 五十錢
 送料 二錢

京都高等蠶業學校並に東亞蠶絲研究所に於ける實驗を基礎とし説ける最新實用的良書
 で文章最も平易一讀せば如何なる初步の方と雖容易に了解し實行することが出來ます

專賣特許

最新式 人工 孵化器

定價
 正式 一組 棒一個付 金四拾五圓
 一組 棒一個付 金參圓五拾錢
 宮下式 一組 棒三個付 金四拾圓
 一組 棒一個付 金拾圓

正村式宮下式共に耐久耐酸性に富み堅牢無比使用簡易でありまして
 需要本邦第一位を占めて居ります最も理想的品であります

機械澆 蠶 卵 臺 紙

定價
 普通用 一圓二十五錢より
 一圓九十錢まで
 浸酸用 (百枚) 一圓四十五錢より
 一圓六十五錢まで

京都市東堀川通出水下

東亞蠶絲株式會社

電話西陣一五一番 振替大阪四三七〇四番

284
 418

終

